

令和6年12月 22 日
＜JH8CBH 佐々木 朗＞

JH7DXJ 安齋さんを偲んで

いつも海を渡ると安齋さんの笑顔に会うことができました。いつも海を渡って来ていただくと安齋さんの優しい言葉を聞くことができました。

青函トンネルが開通した1988年以降、渡島檜山と青森が鉄道でつながったことから、「交流を始めませんか。」ということで、当時の佐藤青森県支部長(JE7JGG)、上田渡島檜山支部長(JA8MEM)たちが話し合い、両支部の行き来が始まりました。当時、安齋さんは、総務幹事として、何度も青森の支部大会で、私たち渡島檜山の一行を迎えていただきました。私も当時まだまだ若輩ではありましたが、先輩たちにくっついて、何度も青森を訪問させていただきました。また、安齋さんも渡島檜山の支部大会に毎年欠かさず参加してくださいました。青森というと、真っ先に思い浮かぶのは安齋さんの人懐っこい笑顔でした。

支部の重要任務を担いながらも、安齋さんは、無線が好きでした。私との交信記録は27回を数えています。2m でもよく交信していただきましたし、短波帯でも、交信していただきました。

やがて、令和2年から2年間、安齋さん

は JARL 青森県支部長として、私は JARL 渡島檜山支部長として、同じ時に支部長職を務めさせていただきました。あいにくコロナが蔓延している時期で、お互いの行き来はできませんでしたが、両支部共催の津軽海峡コンテストでは、メールや電話で何度も打ち合わせをしながら、開催できたのも懐かしい思い出です。

安齋さんと最後にお会いしたのは、今年の7月15日でした。青森クラブの皆さんにお会いしたく思い、急に思い立ち、朝の新幹線に飛び乗り、八甲田丸へ向かいました。全くのサプライズ訪問にもかかわらず、青森クラブのメンバーの皆さんは、私を暖かく迎えてくださいました。昼過ぎに安齋さんもお見えになり、しばらくお会いできなかった支部長時代にお世話になった礼もさせていただくと共に、支部運営のこと、クラブの運営のことなど楽しい無線談義をさせていただきました。

JARL 青森クラブの会長であると共に、自らマイクを握る姿勢は、「無線って、実際オンエアするのが一番楽しいんだよ。」と後輩たちに教えてくださっているようでした。

安齋さん、私たちの電波は、お空にも飛んでいるので、もしかしてそちらでワッチされているのかもしれませんが。私たちは、安齋さんの意思を受け、多くの方がアマチュア無線を楽しんでいただけるよう努めます。どうぞ、お空から、青森県支部、渡島檜山支部の活躍を見守っていただければと思います。

私が今年大切にしてきた言葉は「つながり」です。青森県支部と渡島檜山支部の、青森県支部長としての県内の、そし

て、青森クラブ会長としての会員同士の、そして、全国、全世界との無線仲間との「つながり」に笑顔でご尽力された安齋さん、長い間、アマチュア無線の振興、発展に力を尽くしていただき、心よりお礼申し上げます。残された私たちも安齋さんの志を受け、「こんなすてきな趣味があるんですよ。」と多くの人に語り、新たな「つながり」を作っていく決意です。安齋さん、長い間、第一線でご活躍頂き、ありがとうございました。